

	山形大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	人文学部 (第1年次:300名 第3年次:20名) 社会文化システム研究科 (M:12名)
沿 革	大正9 (1920) 年 山形高等学校 設置 昭和24 (1949) 年 山形大学文理学部 設置 昭和42 (1967) 年 文理学部を改組し、人文学部を設置 平成9 (1997) 年 社会文化システム研究科 設置
設置目的等	昭和24 (1949) 年に、文理学部が設置された。 昭和42 (1967) 年に、人文科学と社会科学の教育研究を通して、これらの諸分野の基礎的知識と技能を教授し、独創性と柔軟性をもって、地域社会から要請される諸課題や国際化に対応できる能力と広い視野を備えた人材の育成を目的として、文理学部を改組し、人文学部が設置された。 平成9 (1997) 年に、人文・社会科学の新しい学際的・総合的教育研究を目指して、文化や社会の今日的な課題に積極的に取り組み、解決できる創造的・実践的能力をもった人材の養成を目指すため、社会文化システム研究科が設置された。
強みや特色、 社会的な役割	【総論】 山形大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。 【教育】 (学部) ○ 幅広い教養と専門的な学術的思考の基礎を備え、創造的で豊かな人間性と、活力ある社会の実現に貢献する力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。 ○ このため、人文・社会科学の基幹的科目を配置して体系的な専門教育を行いつつ、コースや専門を横断した学際的総合的教育を推進している。また、平成25年度からは、学生の留学を奨励し、外国語の授業を強化した教育を実施するために、グローバル文化学コースを新設している。さらに、東北地方の地域再生を担うリーダーを育成するために、人文学部・地域教育文化学部・理学部共通の特別教育コースである『実践教育

プログラム』を実施している。

- これらの取組を通じて、学生の海外研修プログラムへの参加者数が平成24年度から25年度にかけて8割増加している。
- 今後、学習状況がひと目で分かるようなデータ提示の手法の開発に取り組むなど、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、長期インターンシップなど、『実践教育プログラム』と連動したカリキュラム、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、我が国の学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 文化や社会の今日的な課題に積極的に取り組み、分析し、解決できる能力を有する専門職業人を養成する。
- 今後、コースワーク制の強化、社会人の学び直しのためのカリキュラム改革に取り組むなど、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 学際分野における研究実績をいかし、地域連携や社会貢献につながる共同研究プロジェクトに取り組む、我が国社会の課題解決・文化の発展に貢献する。
- このため、文化人類学分野における国際的な観点から、現在、外国人研究チームとしては世界で唯一、現地調査を許されているナスカ地上絵の研究実績をいかし、国際的ネットワークによる総合的な研究を組織的に推進している。
- 今後、更なる研究水準の向上を図るとともに、地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。

【その他】

- 大学院では、地域の課題解決型の人材養成を目的として、カリキュラムの見直しを進め、政策法務や地域政策領域における新たな授業科目の整備などにより、公務員や企業人等の社会人の学び直しの機会の拡充を図っていくとともに、大学院一貫教育の導入を検討していく。
- 地域経済や地域史の専門家を擁する学部として、山形大学東北創生研究所、山形大学都市地域学研究所や山形大学まちづくり研究所等の運営に携わり、社会貢献に寄与している。
- 全学の機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。